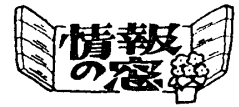


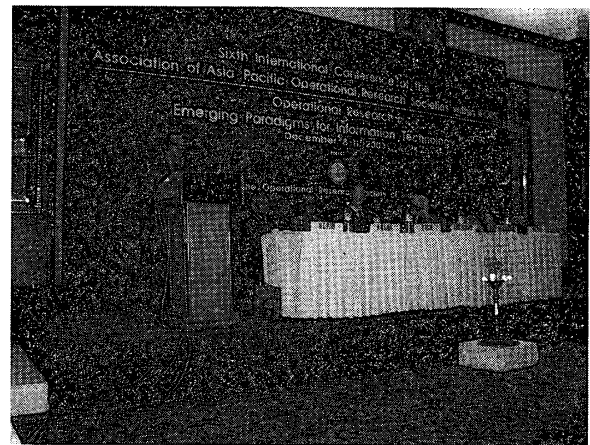
# APORS 2003 に参加して



大山 達雄 (政策研究大学院大学)

アジア太平洋地区各国の OR 学会を構成メンバーとする国際組織である APORS (Association of Asia-Pacific Operational Research Societies) の 3 年に一度の国際学会である第 6 回 APORS 2003 が 2003 年 12 月 8~10 日にかけてインドのニューデリーで開催された。Prof. M. C. Puri (University of Delhi) を実行委員長としてニューデリー地区の学会関係者を中心に開催準備が行われたが、年末 12 月という時期の制約、そして例の SARS、テロの心配もあってインド以外からの出席者は少なかったものの、インド国内からの参加者が多かったせいもあって、総参加者約 500 余名を得た。学会は 3 日間にわたってニューデリーのほぼ中心にあるホテル Grand Intercontinental New Delhi 内の三つの会場で 60 余のセッション構成で開催され、すべての会場で活発な議論、意見交換が行われた。わが国からは、招待講演の茨木教授 (京都大学)、西関教授 (広島大学) をはじめ 10 数名が参加したが、他には米国、英国、ドイツ、オーストラリア、フィリピン、シンガポール、韓国などからそれぞれ数名程度の参加であった。外国からの参加者がさほど多くなかったからであろうか、主催者であるインド OR 学会の接待はなかなかのもので、“英国仕込み”の hospitality あるいは ceremonial event というのだろうか、開会式典の式次第の荘厳さ、すべての招待講演、セッションチェアに対する感謝状と記念品の授与、懇親パーティー、夕食会の豪華さ、インド OR 学会事務局への招待などかなり厚遇されたという印象である。いずれにしても、彼らのすべての心からのもてなしに対して、改めてこの場を借りてお礼を申し上げたい。

学会開催中の 9 日に、これも APORS 開催中の恒例行事ではあるのだが、会長である Prof. S. P. Mukherjee (University of Calcutta) のもとで APORS 理事会が開かれた。わが国からは APORS Secretary を担当している筆者と茨木先生が参加したが、他には Elise del Rosario (フィリピン)、Sung Joo Park (韓国)、Paolo Toth (University of Bologna, IFORS President)、そしてマレーシア、オーストラリアなど



開会式

であった。そこでは、以下のような議題が話し合われた。

- (i) APORS 構成国間の活動、交流をより活発にするために、Newsletter の発行、Journal の各国への無料配布等を考える。APORS は IFORS の下部組織でもあるので、APJOR と IAOR の関係を新たにすることも考えられる。
- (ii) APORS 次期会長は APORS 2006 開催国フィリピンの現学会会長 Vice Reventar 氏が担当する。副会長は Prof. Sung Joo Park (KAIST, 韓国)、事務局長は筆者が継続して担当することになった。Treasurer は今回から置かないことにした。
- (iii) 2004 年 7 月 19~21 日にマニラ (フィリピン) で行われる IFORS Teachers' Workshop は主として途上国における OR teachers の技術向上を目指すものであるが、APORS 各国が送ってほしいと要望した。また APORS 主催の Young Scholars' Program を開催してはどうか、との提案もされた。
- (iv) APORS から IFORS への代表は Prof. S. P. Mukherjee とし、IFORS Vice President を担当することとした。

茨木教授と筆者とは APORS 終了後 12 月 12~14 日にカルカッタで開催された IAPQR (Indian Asso-



APORS 理事会メンバー

ciation for Productivity, Quality & Reliability) 主催の国際シンポジウムに Prof. Paolo Toth, E. Rosarioらとともに参加した。こちらもインド OR 学会員

主体の 400 余名の学会であったが、インドの OR 学会の主要メンバーがニューデリー、カルカッタで活発な活動をしていること、“インドのシリコンバレー”である Bangalore から多くのソフト産業関係者らがこれらの学会に積極的に参加していること、カルカッタの学会事務局が以前の会長経験者ら学会 OB を中心に活発な交流、情報交換を続け、国際交流に対してもかなり積極的であることを感じてきた次第である。

ほぼ 1 週間という短いニューデリーとカルカッタ滞在ではあったが、2 度目のインド訪問ということもあって、またインド人のエネルギーとたくましさを身近に感じるようになった。APORS 活動をはじめとして、いろいろな機会を利用しつつ、アジア地区における OR 学会員の交流がますます盛んになることを期待したい。